

豊かな心を育む

道德教育



成長を実感し、 意欲の向上につながる道德科の評価

- 学校教育全体で道德教育を推進するには、どうすればよいのだろう。
- 道德教育を核にしたカリキュラム・マネジメントとは、どうすればよいのだろう。
- 1時間の道德科の授業を構想するときに、大切なことは何だろう。
- 道德科における「指導と評価の一体化」は、どのように考えればよいのだろう。

目次

1 「特別の教科 道徳」指導の手引	1
① 「道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」	
② 「指導の意図」を明確にした授業づくり	
③ 「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価	
2 実践事例	
(1) 小学校	
① 低学年・第2学年	6
内容項目：A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志	
教材名：「ぼくのゆめ ―大前光市さんといっしょに―」 (光文書院「小学どうとく ゆたかなこころ 2年」)	
② 中学年・第3学年	10
内容項目：C-(12) 公正、公平、社会正義	
教材名：「みさきさんのえがお」 (東京書籍「新編 新しいどうとく3 気持ちがわかると、気持ちが変わる」)	
③ 高学年・第6学年	14
内容項目：D-(19) 生命の尊さ	
教材名：「生命のメッセージ」 (光文書院「小学どうとく ゆたかな心 6年」)	
(2) 中学校	
① 第1学年	18
内容項目：C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	
教材名：「震災を乗り越えて ―復活した郷土芸能―」 (日本文教出版「中学道徳 あすを生きる①」)	
② 第2学年	22
内容項目：D-(19) 生命の尊さ	
教材名：「命を見つめて ―猿渡瞳さんの六百四十六日―」 (日本文教出版「中学道徳 あすを生きる②」)	
③ 第3学年	26
内容項目：B-(6) 思いやり、感謝	
教材名：「塩むすび」 (日本文教出版「中学道徳 あすを生きる③」)	
3 道徳教育パワーアップ実践校 実践事例紹介	
(1) 岐阜市立白山小学校	32
＜研究主題＞自己を見つめ、よりよい生き方を創りだす子の育成	
・研究内容1 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するための工夫	
・研究内容2 道徳的価値を追求し、自己を見つめるための「発問」の精選や授業展開の工夫	
・研究内容3 道徳的实践につなぐ場の工夫	
(2) 関市立津保川中学校	34
＜研究主題＞自己を見つめ、よりよい生き方をめざして実践しようとする生徒の育成	
・研究内容1 道徳科の授業を要とし、全教育活動を通して行う道徳教育の推進	
・研究内容2 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める授業展開の工夫	
・研究内容3 地域・家庭と連携し、道徳性を育む活動の充実	
■ 情報提供	36
(1) 文部科学省「道徳教育アーカイブ」	
(2) 岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」-「豊かな心を育む」	
(3) 岐阜県道徳教育振興会議「1家庭1ボランティア」運動	

1 「特別の教科 道徳」 指導の手引

Q 学校における「道徳教育」とは、
どのようなものだろうか。



Q 「特別の教科 道徳(道徳科)」の
学習を通して、どのような力を育
んでいくのだろうか。

Q 「指導の意図」を明確にして授業
を構想するには、どうすればよい
のだろうか。



Q 「特別の教科 道徳(道徳科)」で
は、何を評価するのだろうか。

①「道德教育」と「特別の教科 道德(道德科)」

Q 学校における「道德教育」とは、どのようなものだろうか。

A 道德科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道德教育

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする。

小・中学校学習指導要領「第1章総則」 ※（ ）内は中学校

学校の教育活動全体を通じて

よりよく生きるための基盤となる**道德性**を養う

■各教科、総合的な学習の時間、特別活動

■日常の生徒指導等



を通じて

要

■ 道德科の学習

- 計画的・発展的に
- 補充・深化・統合
- 道德的価値の理解



内面的資質(心)としての道德性の育成

道德教育は、学校の教育活動全体を通じて行います。
道德科の学習は、内面的資質(心)としての道德性を育成する学習です。



Q 「特別の教科 道德(道德科)」の学習を通して、どのような力を育んでいくのだろうか。

A 道德科の学習

「特別の教科 道德(道德科)」の目標

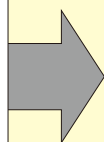
よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、**道德的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道德」 ※（ ）内は中学校

道德科の学習を通して、

道德性を育てる。

- ①道德的諸価値を理解する
- ②自己を見つめる
- ③物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
- ④自己の(人間としての)生き方についての考えを深める



○道德的判断力

・善悪を判断する能力

○道德的心情

・道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

○道德の実践意欲

・道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き

○道德的態度

・具体的な道德的行為への身構え



道德教育の目標を達成するために指導すべき内容項目（小学校：低19、中20、高22、中学校：22）について、週1時間（年間35時間（小1は年間34時間））の授業で、計画的・発展的に指導します。

②「指導の意図」を明確にした授業づくり

Q 「指導の意図」を明確にして授業を構想するにはどうすればよいのだろうか。

A

例えば、「B 友情、信頼」において

①価値の分析

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

第1学年及び第2学年の指導の観点

(9)「友達と仲よくし、助け合うこと。」を基に…

友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合っ
てよかったことを考え、友達と仲よく助け合っていこうと
する心情を育てること。

各教科等、様々な場面で、この視点で友情、信頼に係る指導を行う。

②実態と要因の分析

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、授業の要点を明らかにします。

児童生徒の実態と要因

よさ

困っている友達がいると進んで助けようとしている。

課題

一緒に遊んでいた友達を置いて、自分の都合を優先してしまい、友達を悲しい思いにさせてしまうことがある。

要因

幼児期の自己中心性から十分脱しておらず、友達の立場を理解することが難しい。

実態から育成したいこと

友達のことを考えて、自分から仲よくし、助け合っ
ていこうとする心情を育てたい。

③教材の分析

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

教材「二わのことり」

やまがらの涙の意味を深く考えさせることで、友達同士、仲よく助け合うことのよさに気付くことができるようにしたい。

ねらい

友達のことを考えて行動すると、自分も相手も明るく楽しく生活できることに気づき、友達と仲よく、助け合っていこうとする心情を育てる。

指導方法の工夫

・発問の工夫 ・役割演技 ・ワークシートなど

☆中心発問

目に涙を浮かべたやまがらさんを見て、みそさざいさんはどんな気持ちになったでしょう。

指導の意図の明確化

③「特別の教科 道徳(道徳科)」の評価

Q 「特別の教科 道徳(道徳科)」では、何を評価するのだろうか。

A

道徳科の評価 (評価の公的な文書である「指導要録」の場合)

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた**学習状況や道徳性に係る成長の様子**を評価して記載します。



挨拶の姿や友達との関わりなど普段の学校生活で見られる行動については、指導要録の上では、「行動の記録」として記載します。



道徳科の授業で評価すること

〈育成するもの〉 道徳性

目に見えない内面的資質

- 道徳的判断力
- 道徳的心情
- 道徳的实践意欲
- 道徳的態度

〈評価するもの〉

道徳性につながるような
目に見える**学びの姿**

- 多面的・多角的な見方へと発展しているか
- 自分自身との関わりの中で深めているか



※道徳性を養うことを目指しますが、**道徳性は目に見えないため、養われたか否かは、容易に判断できません。**
※授業の指導のねらいと評価の視点は異なります。

○多面的・多角的な見方へと発展している例

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- ・様々な登場人物の立場で考えている。
- ・自分の考えと友達のことを比べて考えている。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。など

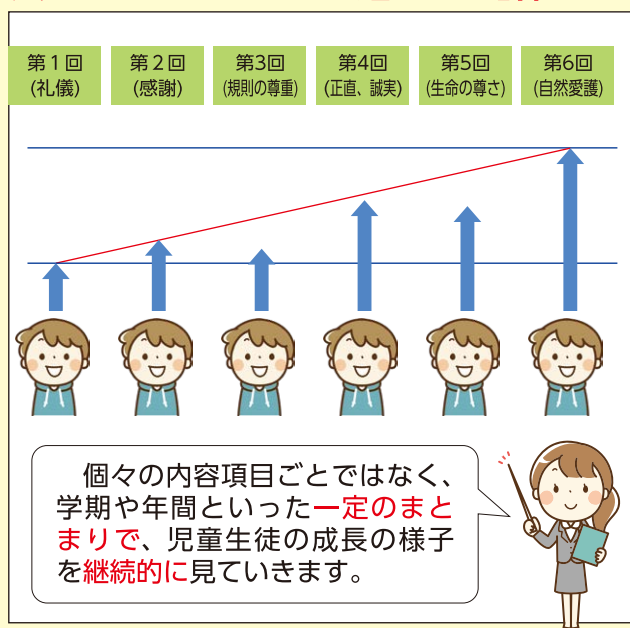
○自分自身との関わりの中で深めている例

- ・教材の登場人物に自分自身を置き換えて考えている。
- ・教材の問題点等を自分のこととして受け止めて考えている。
- ・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- ・自分だったらどうするかなどを考えている。など



道徳科の授業での発言や記述等を通して、**目に見える学びの姿**を評価します。

大きくくりなまとまりを踏まえた評価



★道徳科の評価のポイント★

- ①数値による評価ではなく、**記述式**です。
- ②**他の児童生徒との比較ではなく**、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め励ましていく**個人内評価**です。
- ③児童生徒が、
「より多面的・多角的な見方へと発展しているか」
「道徳的理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点を重視します。
- ④個々の内容項目ごとではなく、学期や年間などの**大きくくりなまとまり**を踏まえて評価をします。
- ⑤調査書に記載して、**入学者選抜の合否判定に活用することはありません。**

2 実践事例

(1) 小学校

- ① 低学年・第1学年 6
内容項目：A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志
教材名：「ぼくのゆめ 一大前光市さんといっしょに一」
(光文書院「小学どうとく ゆたかなこころ 2年」)

- ② 中学年・第3学年 10
内容項目：C-(12) 公正、公平、社会正義
教材名：「みさきさんのえがお」
(東京書籍「新編 新しいどうとく 3 気もちがわかると、気もちがかわる」)

- ③ 高学年・第6学年 14
内容項目：D-(19) 生命の尊さ
教材名：「生命のメッセージ」
(光文書院「小学どうとく ゆたかな心 6年」)

(2) 中学校

- ① 第1学年 18
内容項目：C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
教材名：「震災を乗り越えて 一復活した郷土芸能一」
(日本文教出版「中学道徳 あすを生きる①」)

- ② 第2学年 22
内容項目：D-(19) 生命の尊さ
教材名：「命を見つめて 一猿渡瞳さんの六百四十六日一」
(日本文教出版「中学道徳 あすを生きる②」)

- ③ 第3学年 26
内容項目：B-(6) 思いやり、感謝
教材名：「塩むすび」
(日本文教出版「中学道徳 あすを生きる③」)

主題構成表

■内容項目

A-(5)希望と勇気、努力と強い意志
自分のやるべき勉強や仕事をし
っかりと行うこと。

■価値の分析

- ・自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが大切である。
- ・自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力することができるようにすることが重要である。
- ・この段階では、自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあるのかを知り、しっかりと行うことの意義を自覚させる必要がある。そして、やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるように指導することが大切である。

■内容項目から見た児童の実態

- ・興味や関心のあることは、積極的に取り組むことができる。
- ・家族や教師等の大人から言われたことは、やるべきこととして取り組むことができる。
- ・自分のやるべきことであっても、楽しくなかったり、辛いことや苦しいことがあったりすると、やめてしまうことがある。

■要因

- ・自分の興味や関心、好き嫌いで物事を判断する傾向がある。
- ・自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うことが、自分自身を高めることにつながることに気付いていない。
- ・苦勞してやり遂げたときの喜びや充実感を味わった経験が少ない。

■教材の分析

- ・交通事故で左足を切断したにも関わらず、夢や目標に向かって努力し続ける大前光市さんの姿や考えに触れることで、大前さんの生きる姿に感動し、「夢や目標に向かって自分も努力し続けたい」という思いをもつことができる教材である。
- ・主人公「ぼく」が毎日ダンスの練習をするようになった理由を考えることで、努力する大前さんの姿にあこがれをもち、その努力があったからこそ、素晴らしい活躍があることに気付けるようにしたい。
- ・ワークショップの前後で「ぼく」の気持ちがどのように変化したのかを考えることで、夢や目標に向かって努力し続けることの大切さに気付き、自分も夢や目標をもち、努力していきたいという実践意欲や態度につなげたい。

■ねらい

自分のやるべきことに向かって努力することの価値に気付き、自分がすべきことや、自分が頑張りたいことをやりきろうとする実践意欲と態度を育てる。

■展開の構想

- ・夢や目標に向かって取り組んでいることを考えることで自分の状況を見つめる。
- ・大前さんと出会う前後で「ぼく」の気持ちがどのように変化したのかを考えることで、大前さんのように努力することの大切さに気付く。
- ・大前さんの夢に対する思いを考え、自分の心の中にも頑張りたい気持ちがあることに気付くことで、夢に向かって努力をし続けることの大切さを理解する。
- ・自己を振り返るとともに、これからの生活で大切にしたいことについて考える。

■基本発問(◎中心発問)

- あなたの夢や目標は何ですか。また、夢をかなえたり、目標を達成したりするために大切なことは何でしょう。
- 「ぼく」は、どうしてダンスを毎日練習するようになったのでしょうか。
- ◎「ぼく」が大前さんに教えてもらったことは、ダンスだけでしょうか。
- 夢をかなえたり、目標を達成したりするために大切なことは何でしょう。また、今頑張っていることや、あなたが頑張りたいことは何でしょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

A-（5）希望と勇気、努力と強い意志

自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。

【内容項目について大切にしたいこと】

自分がやるべき勉強や仕事を行うことの価値に気付き、自分がやるべきことに取り組んでいこうとする実践意欲や態度を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：興味や関心のあることは、積極的に取り組むことができる。
- 課題：自分のやるべきことであったとしても、楽しくなかったり、辛いことや苦しいことがあったりすると、やめてしまうことがある。
- 要因：自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うことが、自分自身を高めることにつながることに気付いていないことや苦勞してやり遂げたときの喜びや充実感を味わった経験が少ない。

【実態から育成したいこと】

自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあるのかを知るとともに、それらをしっかりと行うことの大切さに気付かせ、自分がやるべきことや自分が頑張りたいことに取り組んでいこうとする実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

「大前さんのことばとダンスとあのときのバク転をおもい出すんだ。」と「ぼく」が思い返した場面。

あ ら す じ

- ・主人公の「ぼく」は、5歳からダンスを習っている。プロダンサーになることを夢見ているが、最近はダンスがうまくなならないし、楽しくなくサボってしまうこともある。
- ・プロダンサーである大前さんと出会い、左足が義足になっても夢のために努力し続けたときの気持ちを聞いたり、実際に目の前でダンスを見たりしてとても感動した。
- ・大前さんと出会ってからは、サボりたいと思ったことが何度かあっても、毎日練習を頑張っている。
- ・いつか大前さんと同じ舞台に立ちたいと思っている。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

●考え、議論したいこと●

夢や目標の実現に向けて、うまくいかないため、やめたいサボりたいと思ったとき、どのようなことが大切なのかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

自分のやるべきことに向かって努力することの価値に気付き、自分がすべきことや、自分が頑張りたいことをやりきろうとする実践意欲と態度を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	1 価値に関わる自分の状況や考えを見つめる。 ○あなたの夢や目標は何ですか。また、夢をかなえたり、目標を達成したりするために大切なことは何でしょう。 - 漢字テストで100点をとりたいです。そのために、漢字ドリルの宿題を頑張っています。 - 授業のあいさつをみんなの前で姿勢よく大きな声でしたいです。みんなのお手本になりたいです。 - 野球選手になりたいです。毎日キャッチボールや素振りの練習をしています。 - 弁護士になりたいです。そのために勉強を頑張ります。	- 事前に、ワークシートに「将来の夢や目標」と「夢や目標に向かって頑張っていること」を書いておくことで、問題意識をもって取り組むことができるようにする。 - 夢や目標が思い浮かばない児童には、今頑張っていることや頑張りたいこと、できるようになりたいことを問いかける。
展開 前段	2 教師の読み聞かせを聞き、主人公「ぼく」の気持ちの変化について話し合う。 ○「ぼく」は、どうしてダンスを毎日練習するようになったのでしょうか。 - 大前さんにダンスを教えてもらって感動したから。 - 大前さんみたいにかっこよくダンスをできるようになりたいから。 - 自分はまだまだ練習が足りなくてダンスがうまくないから。 - もっと頑張れば大前さんのようにうまくなると思ったから。 - いつか大前さんと同じ舞台に立ちたいと思ったから。 ◎「ぼく」が大前さんに教えてもらったことは、ダンスだけでしょうか。 - ダンスが大好きだという気持ち。 - たくさん泣いたり、辛かったりしたけど、大好きなダンス、夢のために頑張ること。 - もっとうまくなりたい、いろいろなことができるようになりたいという気持ち。 【深めるための補助発問】 好きなことならば、辛いことや苦しいことがあっても頑張れるのでしょうか。 - 私も好きなことならば、頑張りたいと思える。 - 好きなことならば大変なことがあってももう少し頑張ってみようと思うし、上手になりたいから、うまくいかない時があっても、あきらめずに頑張れると思う。 - あきらめない気持ちや続けようとする気持ちがあれば頑張れる。	- 教師が読み聞かせをする前に、本教材の各場面が理解できるように、ダンスを習っている主人公「ぼく」と義足のプロダンサー「大前さん」の説明をする。 - 教科書にある二次元コードから大前さんのダンスの動画を見ることで、ダンスのイメージをもてるようにする。 - なぜ、「ぼく」がサボることなくダンスを頑張るようになったのか、「ぼく」の気持ちの変化を問うとともに、大前さんの努力する姿や夢に対する思いに着目することで人間理解から価値理解へとつなげる。 - 左足を失ってもプロのダンサーになりたいという大前さんの夢に対する強い思いについて考えることで、価値理解へとつなげる。 「深めるための補助発問」では、思った通りにうまくいかないときがあっても、好きなことに向かって頑張りたい気持ちがあることに気付けるようにする。
展開 後段	3 本時の学習を振り返る。 ○夢をかなえたり、目標を達成したりするために大切なことは何でしょう。また、今頑張っていることや、これから頑張りたいことは何でしょう。 ・漢字ドリルの宿題は 時間がかかるから、ていねいに書いていなかったけど、100点をとるために、ていねいに書きながら頑張って覚えていきたいと思います。 ・野球の練習の時、好きな打つ練習ばかりしていたけど、野球選手になるために、あまりうまくない守備の練習もしっかりとやっていこうと思います。	導入で使用した ワークシートを読み返すとともに、本時の道徳的な価値に基づいて「今の自分」「これからの自分」という視点で自己を見つめて振り返りをするように促す。
終末	4 教師の説話を聞く。	辛いことや大変なことがあっても、夢や目標の実現のために努力し続けていることを紹介し、努力していくことが大切であることについて話す。

【評価の視点】

夢や目標に向かって努力することの大切さに気付いている。

①

【評価の視点】

これまでの自分を振り返り、自分のすべきことや頑張りたいことに対する今の自分や今後の自分について考えている。

②

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

自分のやるべきことに向かって努力することの価値に気付き、自分がすべきことや、自分が頑張りたいことをやりきろうとする実践意欲と態度を育てる。

評価

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

- ① 【評価の視点】
夢や目標に向かって努力することの大切さに気付いている。



- ② 【評価の視点】
これまでの自分を振り返り、自分のすべきことや頑張りたいことに対する今の自分や今後の自分について考えている。

2 「児童生徒の姿・発言」を想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ① 夢や目標に向かって頑張っているけど、うまくいかないときに辛かったり、つまらなくなったりするときがある。そんなときでも、サボらずに頑張っていくことが大切だと分かった。
- ② 頑張りたいことややるべきことが分かっているけど頑張れないときがあった。でも、夢や目標に向かってやらなくてはならないことを頑張りたい。



3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

発問「『ぼく』が大前さんに教えてもらったことは、ダンスだけでしょうか。」

- ・ 交通事故によって左足が義足になっても、夢をかなえるために努力する大前さんの思いについて考えることができるようにする。

深めるための補助発問

「好きなことならば、辛いことや苦しいことがあっても頑張れるのでしょうか。」

- ・ 頑張りたいという気持ちがあることに気付けるようにすると同時に、あきらめずに努力し続けることの大切さについて考えることができるようにする。

「道徳的価値の意義や大切さの理解」

ができるようにするために…



学習活動の工夫

②

本時の学びと自分のこれまでの生活を関わらせながら振り返る。

- ・ 導入で使用したワークシートを読み返すことで、「自分の夢や目標」を確認し、それに向かって努力することの大切さと大変さを踏まえて「これからの自分」という視点で自己を見つめて振り返りをするように促す。

「自己を見つめること」

ができるようにするために…



指導

主題構成表

■内容項目

C-(12) 公正、公平、社会正義
誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

■価値の分析

- ・「社会正義」は、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方であり、社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め、思いやりの心などを育むことで、実現する。
- ・「公正、公平にすること」は、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。
- ・自分と異なる考え方や感じ方、少数の立場や意見に対し偏った見方をしたり、分け隔てをしたりせず、そのような人間の弱さを乗り越えて、自らが正義を愛する心を育むことが不可欠である。
- ・集団や社会の一員として、かけがえない生命の自覚等との関連を図り、積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

■内容項目から見た児童の実態

- ・ホームルーム等で、多くの児童が仲間のよさを見付けて、発表することができる。
- ・学校生活において、誰とでも分け隔てなく活動できる児童と、固定した仲間とのみ行動を共にし、仲間関係が閉鎖的になっている児童がいる。
- ・地域の環境や学校規模の特徴により、仲間関係が固定している。
- ・物事を決定するなどの判断基準が、内容のよさよりも、仲のよい仲間の意見を優先したり、一定の仲間の意見に同調したりする傾向がある児童があり、正しい決定とは言えないことがある。

■要因

- ・仲間との意見の食い違いがあったときに、仲間関係が崩れてしまうのではないかと不安に思う傾向にある。
- ・仲間内だけ平和で楽しく過ごすことができればよいと考え、それ以上仲間関係を広げようとは思わない。また、その判断や行動が、周りに与える影響にまで、考えが及ばない。

■教材の分析

- ・図書係の主人公「ぼく」は、本を貸す際、予約順によりみさきさんに先に貸すか、大の仲よしという理由からしゅんやさんに先に貸すか迷うが、最終的には、公平となるよう順番を守って、みさきさんに貸すことに決める教材である。
- ・「みさきさんに内緒で先に貸して。」としゅんやさんに言われた「ぼく」は、先に予約を受け付けたみさきさんに貸すべきだと分かっていたが、自分の仲のよい子を優先してあげたいという思いもあり、すぐに返事をする事ができなかった。その時の「ぼく」の心の葛藤について十分に共感できるようにしたい。
- ・「ぼく」が仲のよいしゅんやさんに先に本を貸してしまったときに、周りにどう影響するか、また、「ぼく」自身は、どう思うのかを考えることで、公正、公平の価値のよさを理解させたい。その上で、児童自身の生活を振り返り、公正、公平な判断ができるようにしたい。

■ねらい

誰に対しても分け隔てをしないことが、よりよい人間関係や公正な社会につながることに気付き、公正、公平な態度で接しようと判断する力を育てる。

■展開の構想

- ・「公平」とはどういうことか日常生活から考える。
- ・二人のどちらを優先するかを「ぼく」の視点でとらえ、葛藤する心情について共感する。
- ・迷っていた「ぼく」が、その迷いを断ち切った思いと、仮に断ち切れなかったときの周囲への影響や「ぼく」の思いを十分に想像し、公正、公平に判断することのよさについて理解する。
- ・公正、公平な主人公の思いや姿から、自己の生活を振り返り、よりよい仲間関係、集団、自分にするには、公正、公平に判断することが大切であると気付く。

■基本発問 (◎中心発問)

- 「公平」とはどういうことでしょうか。そういう場面が日常生活でもありますか？
- 大の仲よしのしゅんやさんが「みさきさんに内緒で先に貸して」といったとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。
- ◎「ぼく」はどうしてみさきさんに先に貸すと決めたのでしょうか。(役割演技)
- 「ぼく」のように、公正、公平に判断しようとする態度で接することができているか、これまでの自分を振り返ってみましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

C-(12) 公正、公平、社会正義

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

【内容項目について大切にしたいこと】

不公平な態度がいじめにつながるなど、周囲に与える影響を考え理解するとともに、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようと判断する力を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：多くの児童が仲間のよさを見付けて、発表することができる。
- 課題：判断を迫られるとき、その判断基準が、意見等の内容というよりも、仲のよい仲間の意見を優先したり、一定の仲間の意見に同調したりする傾向がある。
- 要因：偏った見方や考え方、判断や行動が、周りに与える影響にまで考えが及ばず、仲のよい子のことを最優先にすることが集団作りの基準になっている。

【実態から育成したいこと】

誰に対しても同じ態度で、偏ったものの見方や考え方をしないことが、よりよい人間関係や公正な社会を築くことに気付き、誰にでも分け隔てをせず、公正、公平に接しようと判断する力。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

「やっぱり、だめだよ。みさきさんのつぎまでまって。」と「ぼく」が言った場面。

あ ら す じ

- ・図書係をやっている主人公の「ぼく」は、みさきさんから本の予約を受け付けた。
- ・この本は、シリーズになっていて大人気でなかなか予約ができない本である。
- ・みさきさんの本の予約の後に、大の仲よしのしゅんやさんから「みさきさんに内緒で先に貸してほしい」と言われ、すぐに返事ができなかった。
- ・どちらに本を先に貸すのか迷うが、最終的にみさきさんに先に貸すことに決める。
- ・みさきさんの笑顔を見て、うれしくなった。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

仲間が大事であるという思いを大切にしながらも、判断を迫られた場面等で、私的な偏りのある見方や考え方を貫いたときの周りへの影響や自分自身の思いなどから、公正、公平な判断をすることの大切さについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

誰に対しても分け隔てをしないことが、よりよい人間関係や公正な社会につながることに気付き、公正、公平な態度で接しようと判断する力を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	1 価値に関わる日常生活の状況を見つめる。 ○「公平」とはどういうことでしょうか。そういう場面が日常生活でもありますか？ ・ 差別やえこひいきがないこと。 ・ 日直や給食当番などは、順番にやっています。 ・ アトラクションやレジに並ぶ時、横入りしません。	・ 日常生活の場面を取り上げ、「公平」について具体的に振り返ることができるようにする。 ・ 「公平」にふるまうことのよさについてその根拠に目を向けるようにする。
展開前段	2 範読を聞き、主人公の心の葛藤について話し合う。 ○大の仲よしのしゅんやさんが「みさきさんに内緒で先に貸して」といったとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。 <みさきさんに貸し出す> ・ 先に予約したみさきさんが、正しい順番だ。ずるはよくない。 ・ ほかの人を優先したら、みさきさんは悲しむに違いない。 <内緒でしゅんやさんに貸し出す> ・ 一番の仲よしだから、しゅんやさんに先に貸してあげたい。 ・ 内緒にしておけば、ばれないだろう。嫌われたくない。 ◎「ぼく」は、どうしてみさきさんに先に貸すことを決めたのでしょうか。 <役割演技> 児童(ぼく) 「やっぱり、だめだよ。みさきさんのつぎまでまって。」 先生(しゅんや) 「どうして？大の仲よしなのに！」 児童(ぼく) ・ 大の仲よしだから、わかってほしい。 ・ みんな公平に予約で順番に借りることがよい。 ・ みさきさんが知ったらどう思うか、一緒に考えよう。 【深めるための補助発問】 みさきさんの笑顔を見て「ぼく」は、何を考えていたでしょう。 ・ やっぱり、ちゃんと順番を守って貸してよかった。 ・ 「友達だから」を理由にしなかったから、自分の心もすっきりした。 ・ しゅんやさんにとっても順番を守ることが正しいことを伝えられたから、ぼくもうれしい。	・ 範読の際、主人公の行動について「わかるなあ」と思うところを見つけるように投げかけ、人間理解に迫る視点につなげる。 ・ 児童からあがった「すぐに返事ができなかった」という場面から、「ぼく」がどんなことを考えていたかを問うことで、人間の弱さについて考えるようにする。 ・ 迷っている主人公について、双方の立場の仲間の意見を聞くことで、再度、自分の思いを問い、人間理解と他者理解の視点から考えを深めるようにする。 ・ 教師と役割演技をすることを通して、偏ったものの見方や考え方が不公平を生み出し、周りの人にも影響を及ぼすことに気付くことができるようにする。 ・ 役割演技の中で、「大の仲よしなのに！」と言われて「ぼく」が答えたことに対して、どう思ったか感想を共有するようにする。 ・ 「深めるための補助発問」では、みさきさんの笑顔を見てうれしくなった「ぼく」の考えていることを問うことで、分け隔てなく接するよう判断することのすばらしさに気付くようにする。
展開後段	3 本時の学習を振り返る。 ○「ぼく」のように、公正、公平に判断しようとする態度で接することができているか、これまでの自分を振り返ってみましょう。 ・ 授業中、私語をしている友達が仲よしの子だと、注意できないことがある。誰であってもダメな時にはダメだよと注意ができるようになりたい。 ・ 友達の椅子に勝手に座っていた子に、迷ったけど注意した時、すぐに聞いてくれてうれしかったしほっとした。誰に対しても正しいと思うことを言ったらそれが通じる学級が公正、公平だと思う。これからそういう学級でいたい。	・ 導入で話題にしたことも含め、私心に流されずに、どんな時も公正、公平に物事を判断してきたかどうか振り返り、これからの生き方について自己を見つめるように促す。
終末	4 教師の説話を聞く	・ 誰に対しても分け隔てなく接したことで、よかったと思う教師の体験談から、公正、公平な判断の大切さについて実感できるようにする。

【評価の視点】

私心に流されず、分け隔てなく接するよう判断ができるすばらしさに気付いている。

①

【評価の視点】

誰とでも分け隔てなく接することについてこれまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えている。

②

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

誰に対しても分け隔てをしないことが、よりよい人間関係や公正な社会につながることに気づき、公正、公平な態度で接しようと判断する力を育てる。

評価

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

①

【評価の視点】

私心に流されず、分け隔てなく接するよう判断ができるすばらしさに気付いている。



②

【評価の視点】

誰とでも分け隔てなく接することについてこれまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えている。

2 「児童生徒の姿・発言」を想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ①「友達だから」を理由にせず、順番を守ることができた。だから、みさきさんの笑顔を見ることができ、自分の心もすっきりした。
- ②誰であってもダメな時にはダメだよと注意ができる人になりたい。
迷ったけど注意した時、すぐに聞いてくれてうれしかったしほっとした。誰に対しても正しいと思うことを言ったらそれが通じる学級が公正、公平だと思う。これからもそういう学級でいたい。



3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

「道徳的価値の意義や大切さの理解」

ができるようにするために…

発問「『ばく』は、どうしてみさきさんに先に貸すことを決めたのでしょうか。」

- ・役割演技での教師の心を揺さぶる問い返しから、仲がよいから先に貸してあげたいと葛藤する心情を理解する。そして、公平となるよう順番に貸すと決めたときの行為について問うことで、公平な態度の大切さについて価値理解を図る。

深めるための補助発問「みさきさんの笑顔を見て『ばく』は、何を考えていたでしょう。」

- ・私心ではなく、公平に貸し出したことが、みんなの笑顔につながることをとらえ、分け隔てなく公正、公平に判断する大切さを理解する。



学習活動の工夫

②

「自己を見つめること」

ができるようにするために…

本時の学びと自分のこれまでの生活を関わらせながら振り返る。

- ・「ばく」のように、公正、公平な態度で接することができているか問い、公正、公平に判断できたこと、できなかったことやその時の気持ちについて振り返り、今後、物事の本質を見極め、公正、公平に、判断することで、誰にでも分け隔てなく接する仲間関係につなげる大切さについて実感できるようにする。



指導

主題構成表

■内容項目

D-(19) 生命の尊さ

生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・生命を大切にし尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れである。
- ・生命の尊さを概念的な言葉で理解するとともに、自己との関わりで生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深めることが大切である。
- ・個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるように指導することが重要である。

■内容項目から見た児童の実態

- ・子どもたちは命を守る訓練や事件や事故・災害のニュースなどを通して、生命を守る必要性や生命の尊さを理解している。一方で、生命の有限性や社会性については、実感を伴った理解をするには至っていない。
- ・生命は大切なものであるということは言葉では理解している。一方で、生命の尊厳を軽視してしまうような言動が見られることもあり、生命のかけがえのなさを自覚するには至っていない。

■要因

- ・生命の尊さに触れる活動等が多くなく、逆に生命の尊さを軽んじてしまう情報に多く触れているため、じっくりと生命の尊さについて考える機会が少ない。
- ・生命の有限性、社会との関わりなど、つながりの中にある生命のすばらしさについて考える機会が少ない。

■教材の分析

- ・息子を交通事故で亡くした鈴木さんの思いを通して、家族を亡くし残された方々の辛さや、それでもなお抱き続ける家族への深い愛情を知り、生命の尊さやかけがえのなさについて考えることで生命を大切にすることを育てる教材である。
- ・「『生きているってそれだけで素敵なことなんだよ。』って、知らせたいんです。」という鈴木さんの言葉から、生命のかけがえのなさ、自他ともにすべての生命が、重く尊いものであるということに気付けるようにしたい。
- ・「もしかしたら、命がある、生きていることは奇跡的なものかもしれません。」という言葉から、普段当たり前だと思っていることが当たり前ではないということに気付けるようにするとともに、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情を育てていきたい。

■ねらい

鈴木さんの思いを通してかけがえのない生命の尊さに気づき、自分の命、家族の命、またすべての命を慈しむ心情を育てる。

■展開の構想

- ・本時の教材に関わる「かけがえのない生命」について考える。
- ・どうしても忘れたくない、亡くなった後でも大切に思う気持ちについて捉える。
- ・命は、自分にとって大切なものであるとともに、家族など自分を取り巻く人にとってもかけがえのない大切なものだと思われていることを捉える。
- ・命を慈しむ思いは、ほかの何物にも代えがたい尊いものであることを実感できるようにする。

■基本発問（◎中心発問）

- 「命の大切さ」について考えたことはありますか。
- 「非常につらい」鈴木さんが、それでも展覧会を開こうと思ったのは、どんな気持ちからだろう。
- ◎「命の重さを分かってほしい、命をかがやかせてほしい」とは、どういうことだろう。
- これからの自分の命をどのようにかがやかせていきたいかについて考えてみましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

Dー(19) 生命の尊さ

生命が多くのかげがえの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

【内容項目について大切にしたいこと】

人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さなど、様々な側面から生命のかげがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【児童の実態と要因】

- よさ：「生命は、大切だと思う」と答える児童がほとんどである。
- 課題：日常生活の中で、生命の尊厳を軽視してしまうような言動が見られることがある。
- 要因：日常生活の中で、生命の尊さについてじっくりと触れたり考えたりする機会が多くなく、実感を伴って理解したり考えをまとめたりすることに弱さがある。

【実態から育成したいこと】

かけがえのない生命の尊さに気付き、自分の命を大切にすること、自分のことをとても大切に思ってくれる存在がいること、自他ともにかけがえのない存在であることの自覚をもち、すべての命を慈しむ心情。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

「命の重さを分かってほしい、命をかがやかせてほしい」という鈴木さんからのメッセージについて考える場面。

あ ら す じ

- ・ 交通事故で息子を失った鈴木さんは、命の大切さをうったえる「生命のメッセージ展」を企画する。
- ・ 「生命のメッセージ展」にかける思いについて語る。
- ・ 思いを伝え続けるために「生命のメッセージ展」を開き続けている。
- ・ 小学生に向けて、生命のかげがえのなさについてメッセージを送っている。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

● 考え、議論したいこと ●

命はかけがえのないものであり、その大切な命をかがやかせるとはどういうことかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

鈴木さんの思いを通してかけがえのない生命の尊さに気付き、自分の命、家族の命、またすべての命を慈しむ心情を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	1 価値に関わる自分の行動や考えを振り返る。 ○「命の大切さ」について考えたことはありますか。 ・ 一つしかない大切なもの。 ・ 自分の命を自分で守ることが大事。 ・ 災害や悲しい事件が多くニュースで流れている。	・ 命をなくす悲しい事件や事故がある一方で、命が救われた話題も織り交ぜるなど、命の尊さを考えることとつなげられるようにする。
展開前段	2 教材「生命のメッセージ」を読み、話し合う。 ○「非常に辛い」という鈴木さんが、それでも展覧会を開こうと思ったのは、どんな気持ちからだろう。 ・ 思い出すのは辛いけど、でも絶対に忘れたくない気持ちもある。 ・ 最後までやりきること、「命の重さ」について、多くの人に伝えたいという気持ちがある。 ・ 「生きていること」について考えてほしかった。 ◎「命の重さを分かってほしい、命をかがやかせてほしい」とは、どういうことだろう。 ・ 命は重い。生きているからこそ、自分のがんばれることに精一杯取り組んでほしいという思い。 ・ 命は自分だけのものではなく、みんながその命をとっても大切に思っていることを知ってほしいという思いでいると思う。 【深めるための補助発問】 一方で、「生きていることって、それだけで素敵なこと」とも伝える鈴木さんはどんな気持ちから言っているのだろう。 ・ とにかく、まずは生きていることが大切で、だからこそ命を大事にしてほしいと言いたい。 ・ 生きていてくれたらどんなに良かったかという、いてくれることのありがたさについて、考えてほしいと思っている。 ・ 息子さんの代わりに大学生活を送ることで、少しでも同じ時間を共有した気持ちになりたかったし、やっぱり生きていてほしかった、命は大切だということをみんなに知ってほしいと思っている。	・ 親が子どもを思う気持ちから、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が育まれ存在することについて考えられるようにする。 ・ 「血を吐くような苦しい思い」を乗り越えてまで、生命とは尊いものであるということを感じようとした鈴木さんの思いを感じること、生命に対する思いの深さを理解できるようにする。 ・ 命の重さ、命のかがやきについて、鈴木さんの言葉から、それぞれの思いをもてるようにする。また、亡くなった息子さんに対する深い愛情とともに、そのつらさを乗り越えて前に向かって進む鈴木さん自身の命のかがやきにも気付くことで、生命の尊さについて多面的に捉えることができるようにする。 ・ 「深めるための補助発問」をすることで、困難を乗り越えられなかったり、活躍ができていなかったりしても、「生きていることは奇跡的なことかもしれない」という言葉から、普段当たり前だと思うことも、当たり前ではないことに気付けるようにする。 【評価の視点】 全ての命は、誰にとっても尊く重いものであることについて、多面的・多角的に考えている。 ①
展開後段	3 本時の学習を振り返る。 ○これからの自分の命をどのようにかがやかせていきたいかについて考えてみましょう。 ・ 「命が大切」ということは、よく言われるし、知っていると思っていた。でも、自分のことをすごく大切に思ってくれている人がいるということを改めて考えたし、当たり前で生活しているけど、自分にできることを見つめて精一杯取り組んでいくことが「かがやく」ことだと思った。	・ 本時の道徳的な価値に基づいて、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返りをするように促す。 【評価の視点】 命のかがやきについて、これまでの体験から感じたことを想起したり、これからの生き方について考えたりしている。 ②
終末	4 教師の説話を聞く。	・ 精一杯取り組み、命をかがやかせている教師の体験談を話す。

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

鈴木さんの思いを通してかけがえのない生命の尊さに気づき、自分の命、家族の命、またすべての命を慈しむ心情を育てる。

評価

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

①

【評価の視点】

全ての命は、誰にとっても 尊く重いものであることについて、多面的・多角的に考えている。



②

【評価の視点】

命のかがやきについて、これまでの自分の体験から感じたことを想起したり、これからの生き方について考えたりしている。

2 「児童生徒の姿・発言」を想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ① 誰もが尊い命をもっていること。家族が亡くなってしまって、すごく悲しくて、生きていてほしかった思いもあるし、誰もが生きていたらいいことがあるよと伝えたい思いももっていると思う。
- ② 命が大切だということはよく言われるし、知っていると思っていたけれど、今日の資料を読んでいろんな人が自分のことを大切にしてくれていることを、改めて考えることができた。当たり前で生活していることは当たり前ではなくて、自分の命を大事にしたいと思った。



3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

「道徳的価値の意義や大切さの理解」

ができるようにするために…

発問「『命の重さを分かってほしい、命をかがやかせてほしい』と願う鈴木さんはどんな思いでいるのだろう。」

- ・ 鈴木さんの思いとともに、鈴木さんの行動にも着目できるようにする。

深めるための補助発問「『生きていることって、それだけで素敵なこと』とも伝える鈴木さんはどんな気持ちから言っているのだろう。」

- ・ 困難を乗り越えられなかったり、思ったような活躍ができなかったりしていても、「今生きている」ことは当たり前ではなく、自分にも周囲にとっても十分に尊いことだと気付けるようにする。



学習活動の工夫

②

「自己を見つめること」

ができるようにするために…

本時の学びと自分のこれまでの生活を関わらせながら振り返る。

- ・ 生命のかけがえのなさについて、「これまでの自分に関わる出来事についての考え」「今の自分の考え」「これからの自分が出会うかもしれない場面についての考え」という視点で振り返り、自分事として捉えることができるようにする。



指導

主題構成表

■内容項目

C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

■価値の分析

- ・郷土とは、自分の生まれ育った環境に伴う精神的なつながりがある場所を示し、伝統とは、長い歴史を通じて培い伝えてきた精神的な在り方のことである。
- ・現代の日本では、都市化と過疎化が進行し、郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になる傾向が見られるが、地域社会は家庭や学校とともに生徒にとって大切な生活の場である。
- ・地域社会には、長い間維持されてきた独自の行動様式や文化型式があり、地域の方と交流をもつことを通してそれらに触れ、郷土に対する認識を深め共同することで地域社会の成員としての公共性を身に付ける。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・地域で行われる様々な行事やお祭りに積極的に参加する生徒が多く、地域のよさや温かさを実感している。
- ・地域で行われる行事にどんな意味や伝統があるのかを知らず、何となく行事に参加している生徒もいる。

■要因

- ・地域の方との交流が限られており、郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている。
- ・「気軽に楽しみたい」「あまり関わりたくない」など、自分が自分だけで存在していると考えがちで、自分が支えられて生きていることを自覚しておらず、伝統を支える地域の人たちの苦勞や郷土への思いを十分に理解していない。

■教材の分析

- ・東日本大震災で被災し、地元保存会の協力を得ながら地域芸能を復活させた津軽石中学校の生徒たちの姿から、地域の伝統や文化の継承について考えることができる教材である。
- ・衣装づくりや練習がうまくいかない時の思いを考えることで、伝統芸能を復活させたいという願いがある一方で、困難にめげそうになる気持ちや不安等、多様な思いに気付けるようにしたい。
- ・すべての演目が終わったあとに沸き起こった大きな拍手、笑顔、涙を拭う人を見て主人公たちがどんなことを感じたのかを考えることで、地域の文化を自分たちの手で引き継ぐことの喜びとその大切さに気付けるようにするとともに、郷土の一員として行事に積極的に参加しようとする実践意欲と態度につなげたい。

■ねらい

郷土芸能の復活や継承には、様々な不安や困難を乗り越える生徒や保存会の人たちの、地域に対する強い願いがあることに気づき、地域の文化の伝承に自分たちが関わる重要性を理解することで、自分も郷土の一員として行事に積極的に参加しようとする実践意欲と態度を育てる。

■展開の構想

- ・教材の伝統芸能を視聴し、本時の学習の見通しをもつ。
- ・郷土芸能を復活させる決意をしたものの、思ったように進まず、不安や困難にめげそうになる気持ちを、共感的に理解する。
- ・郷土を愛し、地域の発展のために貢献したいという、中学生たちの強い気持ちについて考える。
- ・地域行事を例示し、自分がどのような気持ちで参加してきたかを振り返り、地域と自分の関わりについて考える。

■基本発問 (◎中心発問)

- 「法の協鹿踊り」とはどんな踊りなのでしょう。
- 郷土芸能を復活させたいという思いがあらながらも、衣装づくりや練習がなかなかうまくいかなかったとき、生徒たちはどんな気持ちだったのでしょうか。
- ◎すべての演目が終わった後、大きな拍手、涙を拭う人や笑顔の人を前に、長洞くんたちはどんなことを考えたのでしょうか。
- これまで自分が地域とどのように関わってきたかを見つめ、これからの自分について考えましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

Cー(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

【内容項目について大切にしたいこと】

郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、そのよさに気づき、郷土に対する誇りや愛着をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする意欲と態度を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：地域のよさや温かさを実感し、行事に積極的に参加する生徒が多い。
- 課題：地域で行われる行事の意味や歴史について考えることなく、気軽に楽しむだけで、なんとなく行事に参加する生徒もいる。
- 要因：地域の行事にどのような意味や歴史があり、どんな思いで運営されているか考えたことがなく、地域の人たちの苦労や思いを十分に理解していない。

【実態から育成したいこと】

地域の行事は、ただ楽しいだけのものではなく、運営する人の郷土の発展や人々のつながりを大切にしたいと願う気持ちが込められているものであることに気づき、そうした人々に感謝の思いをもつとともに、自分も郷土の一員として行事に積極的に関わろうとする実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

すべての演目が終わったあと、観客から大きな拍手が沸き起こり、長洞くんがこれまでのことを振り返った場面。

あらすじ

- ・東日本大震災での被災により、中断した伝統芸能発表を復活させたいという声が生徒から挙がる。
- ・衣装づくりや練習が始まるが、初めてのことで戸惑ったり、保存会の人との時間が合わず練習が思うように進まなかったりするなど様々な苦労や困難に見舞われる。
- ・少しずつ練習を積み重ね、ついに披露することができた。その発表は、保存会や地域の人から喝采を浴び、生徒も自分たちの手で伝統を受け継いだ達成感を抱く。さらに後輩にも引き継いでほしいという願いをもつ。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

●考え、議論したいこと●

なぜ自分たちの手で伝統を伝えることが大切なのかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

郷土芸能の復活や継承には、様々な不安や困難を乗り越える生徒や保存会の人たちの、地域に対する強い願いがあることに気づき、地域の文化の伝承に自分たちが関わる重要性を理解することで、自分も郷土の一員として行事に積極的に参加しようとする実践意欲と態度を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1 教材に関心をもち、本時の見通しをもつ。 ○「法の脇鹿踊り」とはどんな踊りなのでしょう。 ・かなり動きが激しい踊り。太鼓のリズムも速い。 ・東日本大震災で被災し、住むことができなくなり、消滅するところだったけれど、「法の脇」という地名を残したいという地域の人の強い思いがこもったものなんだな。 ・中学生が衣装づくりから始めたなんてすごいな。	・自分たちの地区の伝統芸能について尋ね、つながりを想起できるようにする。 ・宮古市の位置を確認し、東日本大震災で被災してから「法の脇鹿踊り」が復活するまでの経緯を取材した動画を視聴し、「郷土の伝統芸能」について関心を高められるようにする。
展開前段階	2 教材「震災を乗り越えて」を読み、話し合う。 ○郷土芸能を復活させたいという思いがありながらも、衣装づくりや練習がなかなかうまくいかなかったとき、生徒たちはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・自分たちにできるのか不安だ。 ・作ったことがない1・2年生もいるし、自信がない。 ・途絶えさせたくないけれど、あきらめそうになるな。 ◎すべての演目が終わった後、大きな拍手、涙を拭う人や笑顔の人を前に、長洞くんたちはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・苦勞したけれど、やって本当に良かった。 ・保存会の人もこんなに喜んでくれている。うれしい。 ・自分たちの力で復活させることができた。同じ思いでがんばってくれる仲間たちがいたからだ。後輩にも絶対引き継いでほしい。 【深めるための補助発問】 ○地域の人は、長洞くんたちの発表を見て、どんなことを考えたでしょう。 ・大人がなかなかできなかったことを、中学生がやってくれた。驚いたけれど、うれしい。ありがとう。 ・「守りたい」という思いで、これまで大切にきてきて本当に良かった。中学生の力は大きいな。 ・感動した。また、改めてこの踊りは地域の誇りと呼べる素晴らしいものだった。これからも、地域全体で守っていききたい。	・保存会との連携がうまくいかない状況、初めてでなかなか進まなくてあきらめそうになる気持ちへの共感的な理解を促し、引き継ぎたい思いはあるものの拭えない不安や苦悩について、様々な思いを考えられるようにする。 ・地域の人、後輩、自分自身に対してなど、いろいろな視点からの思いを考えることにより、地域の人への感謝の思いや地域を誇りに思う気持ちを抱いていることに気付けるようにする。 ・長洞くんの「自分たちの手で伝えてほしい」という言葉を取り上げ、その理由を考えられるようにする。 ・「深めるための補助発問」をすることで、地域の人の伝統芸能を守りたいと願う強い思いや、中学生の手で引き継がれたことに対する喜びについて気付けるようにするとともに、その価値について考えられるようにする。 【評価の視点】 伝統芸能を引き継ぐ意義や喜び、苦勞について理解し、その発展に努めることの価値について考えている。①
展開後段階	3 高められた価値観から自己を見つめる。 ○これまで自分が地域とどのように関わってきたかを見つめ、これからの自分について考えましょう。 僕はこれまで、単に地域の行事は楽しいもので、何も深く考えずに参加していた。しかし、今日の学習で、中学生が地域のために自分たちで動き出し、伝統を引き継いでいたことを知り、すごく驚き自分も何ができるだろうと考えた。これまで、たくさん地域にお世話になってきたので、これからは、地域の行事やボランティアに自分から積極的に参加していきたい。	・自分たちの地域の行事や伝統文化について尋ねたり、その写真を提示したりしてその時の自身の様子と思いについて想起させるとともに、本時の学習につないで振り返りができるようにする。 ・地域の方のインタビューを視聴し、その思いを改めて感じ、自分ができることを実践していこうという意欲につなげる。 【評価の視点】 「地域との関わり」について、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。②
終末	4 教師の説話を聞く。	・校内で地域行事に主体的に関わり続けている先輩の声を紹介し、その思いを広げる。

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

評価

郷土芸能の復活や継承には、様々な不安や困難を乗り越える生徒や保存会の人たちの、地域に対する強い願いがあることに気づき、地域の文化の伝承に自分たちが関わる重要性を理解することで、自分も郷土の一員として行事に積極的に参加しようとする実践意欲と態度を育てる。

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

- 【評価の視点】
- ① 伝統芸能を引き継ぐ意義や喜び、苦勞について理解し、その発展に努めることの価値について考えている。

- 【評価の視点】
- ② 「地域との関わり」について、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。

2 「児童生徒の姿・発言」を想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ① 伝統文化を守るということは、達成感を味わえるだけでなく、地域の人が涙を流すほど喜ぶくらい大きな意味があるのだと分かった。地域みんなで守る大切なものなんだな。
- ② これまでは行事を楽しむために参加しているだけだった。しかし、様々な人の思いが詰まっているし、これまで地域に本当お世話になってきたから、自分も積極的に関わりたい。

3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

「道徳的価値の意義や大切さの理解」
ができるようにするために…

発問「すべての演目が終わった後、大きな拍手、涙を拭う人や笑顔の人を前に、長洞くんたちはどんなことを考えていたのだろう。」

- ・自分の達成感はもちろんのこと、地域の人々の郷土を思う気持ちに気付いたり、後輩に託したい思いが湧いたりしたことなど、多様な視点からの思いが出せるようにする。

深めるための補助発問「地域の方は、長洞くんたちの発表を見て、どんなことを考えたでしょう。」

- ・地域の方の思いを考えることで価値に迫り、郷土の一員として主体的に関わろうとする実践意欲につなげる。

学習活動の工夫

②

「自己を見つめること」
ができるようにするために…

本時の学びと自分のこれまでの生活に関わらせながら振り返る。

- ・導入で想起した地域の行事について、これまでの参加状況やその時の思いなど、自分がどのように地域と関わってきたかを振り返り、これから、郷土のために何ができるか考え、進んで関わっていこうという実践意欲や態度につなげるようにする。

指導

主題構成表

■内容項目

D-(19) 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・ 生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。
- ・ 中学生の時期は、比較的健康に毎日を過ごせる場合が多いため、自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。
- ・ 生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることが重要である。
- ・ 生命にいつか終わりがあることなどを改めて考えることを通して、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・ 育てている植物や教室で飼育している身近な生き物の生命を大切にすることができる生徒が多い。
- ・ 一方で、そうした生命の尊さへの気持ちが乏しく、身近な生命に関心が低い生徒の姿も見られる。
- ・ また、日常生活で、相手の気持ちを考える意識が低い生徒もおり、仲間へのからかいや軽はずみな発言も見受けられる。その中には、自他の生命を軽視した言動も見受けられる。

■要因

- ・ 身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験が少なく、かけがえのない自他の生命を尊重するということの理解が十分ではない。

■教材の分析

- ・ 小学6年生の時に「右大腿骨骨肉腫」という診断を受けたが、告知から646日もの間、がんと闘った猿渡瞳さんの半生から、限りある生命を精一杯生きることの大切さについて考えることができる教材である。
- ・ 「今のままでは命は半年しかない」と宣告された時の瞳さんの気持ちを考えることを通して、瞳さんが、受け入れがたい現実と直面し、辛さや悲しみに苛まれていることに気付けるようにしたい。
- ・ 瞳さんの、全身ががんにむしばまれている中でも、治療方針について医師と話し合い、諦めずに精一杯生きようとする思いや、「本当の幸せ」に対する考えについて考えることを通して、限りある生命を精一杯生きることがかけがえのない生命を尊重することにつながると思いき、生きていることの有り難さに深く思いを寄せ、自他の生命を尊重しようとする心情につなげたい。

■ねらい

生命にいつか終わりがあることを改めて理解し、苦しみの中にあっても限りある生命を精一杯生きることがかけがえのない生命を尊重することにつながると思いき、自らの生命の大切さを深く自覚し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

■展開の構想

- ・ 猿渡瞳さんについての紹介を聞き、本時の価値の方向を理解する。
- ・ 病気のことを聞き、辛さや悲しみに苛まれているであろう瞳さんの気持ちに共感する。
- ・ 諦めずに精一杯生きようとする瞳さんの思いを考えることを通して、限りある生命を精一杯生きることがかけがえのない生命を尊重することにつながると思いき。
- ・ 本時考えたことを基に、生命との向き合い方や生き方について、これまでの自分を振り返るとともに、これからの自分について考える。

■基本発問（◎中心発問）

- 「猿渡瞳さん」とはどんな人なのでしょう。
- 瞳さんの生き方で、すごいと思うところはどこですか。
- お母さんから病気のことを聞き、涙がとめどなく落ちている時、どんな思いが込み上げていたのでしょうか。
- ◎治療方針について、自分の考えや思いを伝え、医師と話し合う瞳さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。
- 「生命を大切にすること」とはどういうことか、これまでの自分を振り返り、これからの自分について考えましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

■内容項目

D-(19) 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

【内容項目について大切にしたいこと】

生命にいつか終わりがあることを改めて考えることで、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重して生きようとする心情を育てること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：育てている植物や教室で飼育している身近な生き物の生命を大切にすることができる生徒が多い。
- 課題：相手の気持ちを考える意識が低く、仲間へのからかいや軽はずみな発言も見受けられる。その中には、自他の生命を軽視した言動も見受けられる。
- 要因：自分たちの生命の有限性や連続性について深く考えるきっかけとなるような経験が少なく、かけがえのない自他の生命を尊重するというものの理解が十分でない。

【実態から育成したいこと】

限りある生命を精一杯生きることが、かけがえのない生命を尊重することにつながると気づき、生きていることの有り難さに深く思いを寄せ、自他の生命を尊重して生きようとする心情。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

瞳さんが、治療方針について、自分の考えや思いを伝え、医師と話し合う場面。

あ ら す じ

- ・小学6年生の時に、「右大腿骨骨肉腫」という診断を受け、「今のままでは命は半年しかない」と宣告される。
- ・過酷な治療に耐えたことで、奇跡的回復力を見せ、小学校の卒業式に出席する。その過酷な治療期間中、自らの治療方針について、自分の考えや思いを伝え、医師と話し合う。
- ・中学2年生の時に、がんにより全身をむしばまれている中で、市の弁論大会の学校代表に選ばれ、毎晩、原稿と必死に向き合い続ける。そして、弁論大会当日、「ふつうに生きることの幸せと命の尊さ」について訴える。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

●考え、議論したいこと●

生命にいつか終わりがあることを理解した上で、かけがえのない自他の生命を尊重して生きていくとはどういうことなのかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

生命にいつか終わりがあることを改めて理解し、苦しみの中にあっても限りある生命を精一杯生きることがかけがえのない生命を尊重することにつながると気づき、自らの生命の大切さを深く自覚し、自他の生命を尊重して生きようとする心情を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1 教材に関心をもち、本時の見通しをもつ。 ○「猿渡瞳さん」とはどんな人なのでしょう。 ・ 小学6年生の時に、「右大腿骨骨肉腫」という診断を受け、「今のままでは命は半年しかない」と宣告される。 ・ 過酷な治療に耐え、告知から646日に及ぶ闘病生活ののち、中学2年生で亡くなった。	・ 生徒と同じ、「中学2年生」で亡くなった瞳さんの生き方について考えていくことで、「生命の尊さ」について考えるという本時の価値への方向付けを行う。
展開前段階	2 教材「命を見つめて」を読み、話し合う。 ○瞳さんの生き方で、すごいと思うところはどこですか。 ・ 病気のことを聞いてすぐに、「お母さんががんじゃなくて、私で本当によかった」と思えるところ。 ・ 骨肉腫との闘病生活さえも、多くの人の痛みを理解することができる機会になったと考え、「骨肉腫ありがとう。」と語れるところ。 ○お母さんから病気のことを聞き、涙がとめどなく落ちている時、どんな思いが込み上げていたのでしょうか。 ・ どうして私が死ななくてはいけないのだろう。 ・ 死にたくない。まだ小学6年生なのに……。 ◎治療方針について、自分の考えや思いを伝え、医師と話し合う瞳さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 自分の身体と命のことなのだから、自分で考え、自分で決めたい。・「がんだから仕方ない」と諦めてしまいたくない。 ・ たった0.1パーセントの可能性であっても、希望が残っている限りは、それを信じて闘いたい。 【深めるための補助発問】 「私の心はがんに侵されてないから幸せ」とは、どういふことなのでしょう。 ・ 「生きる」ということを諦めず、命の大切さを実感し、今を精一杯生きている自分は幸せな生き方をしているのだということ。たとえ五体満足でも、命の大切さに気付いていない人は「心が侵されている」から幸せとは思えない。	・ 教材を読む前に、瞳さんの生き方について、「すごい」と思ったところを見つけるように投げかけ、価値理解に迫るための視点を焦点化する。 ・ 瞳さんでさえ、「今のままでは命は半年しかない」と言われた当初は、辛さや悲しみに苛まれていることに気付けるようにし、瞳さんへの共感的な理解を促す。 ・ 生徒から、「がんに負けない」という希望に向かう強い意志や、支えてくれる家族への感謝などの思いが強く出てきた時は、それらの多様な価値を認めつつ、ねらいとする「生命の尊さ」に結び付けるようにする。 【評価の視点】 「かけがえのない生命を尊重する」とはどのようなことを考えている。 ①
展開後段階	3 高められた価値観から自己を見つめる。 ○「生命を大切にする」とはどういうことか、これまでの自分を振り返り、これからの自分について考えましょう。 ・ これまで、「生きている」ということの有り難さについて真剣に考えることはほとんど無かった。けれど、今、自分たちが生きていることは当たり前ではないということを改めて理解したので、悔いのないよう、精一杯生きていきたい。 ・ けんかをしたときなどに、すぐに生命を軽視するような言葉を言うてしまうことがある。よくないことだとは分かっていたけれど、改めて、それがどれだけひどいことを考えたので、生命を大切にする言動を心がけたい。	・ 弁論大会での瞳さんの実際のスピーチを聞き、「今生きていることに感謝し、精一杯生きていくことが、かけがえのない生命を尊重することである」という瞳さんの思いを確認することで、これをもとに振り返ることができるようにする。 【評価の視点】 「生命を大切にする」ということについて、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。 ②
終末	4 教師の説話を聞く。	・ 自分だけでなく、周りの人も同じように、限りある生命を精一杯生きていることに気付く説話をする。

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

生命にいつか終わりがあつたことを改めて理解し、苦しみの中にあつても限りある生命を精一杯生きることがかけがえのない生命を尊重することにつながると気づき、自らの生命の大切さを深く自覚し、自他の生命を尊重して生きようとする心情を育てる。

評価

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

①

【評価の視点】

「かけがえのない生命を尊重する」とはどのようなことを考えている。

②

【評価の視点】

「生命を大切にする」ということについて、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。



2 「児童生徒の姿・発言」の想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ① 「生きる」ということを諦めず、命の大切さを実感し、今を精一杯生きているからこそ、瞳さんは、「自分は幸せな生き方をしている」と感じているのだと思う。
- ② これまで、「生きている」ということの有り難さについて真剣に考えることはほとんど無かった。けれど、今、自分たちが生きていることは当たり前のことではないことを改めて理解したので、自分の人生に悔いのないよう、精一杯生きていきたい。



3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

「道徳的価値の意義や大切さの理解」

ができるようにするために…

発問「治療方針について、自分の考えや思いを伝え、医師と話し合う瞳さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。」

- ・ がんと闘う苦しみの中にあつても、限りある生命を精一杯生きていこうとしていることに気付けるようにする。

深めるための補助発問「『私の心はがんに侵されてないから幸せ』とは、どういうことなのでしょう。」

- ・ 精一杯生きることが、生きていくうえで一番大切なものだと考えている瞳さんの思いに気づき、そうした生き方こそが、生命を尊重することだと考えられるようにする。



学習活動の工夫

②

「自己を見つめること」

ができるようにするために…

本時の学びを、これからの自分の生活と関わらせながら振り返る。

- ・ 猿渡瞳さんが実際に弁論大会で語ったスピーチの音声（原稿）を聞き、「今生きていることに感謝し、精一杯生きていくことが、かけがえのない生命を尊重することである」という瞳さんの思いを確認し、これをもとにこれまでの自分を振り返ることで、「生命の尊さ」について深く考えることができるようにする。



指導

主題構成表

■内容項目

B-(6) 思いやり、感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

■価値の分析

- ・感謝の心は、主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。その関係を根底で支えているのは、互いの感謝の心である。人がおのずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを有り難いと感じ、素直に受け止めたときである。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。
- ・感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの人々への感謝へと次第に広がっていく。
- ・思いやりや感謝の気持ちを言葉や行動にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもちて応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・仲間のために進んでプリント等を配付したり、困っている仲間に優しく声をかけたりするなど、他者のことを考えた思いやりのある姿が見られる。
- ・進路選択への不安などから、周囲の思いやりに目を向けることができないことがある。また、支えに気付いていても、感謝の気持ちを言葉や行動にして表現することに弱さがある。

■要因

- ・自分のことに気を取られ、周囲の思いやりに目を向けることができないことがある。
- ・支えられていることに気付き、有り難いと思っけていても、照れくささや恥ずかしさなどから、感謝の気持ちを素直に伝えるに至らない。

■教材の分析

- ・避難所での生活の中で、利己的、自己中心的になっていた主人公が食事係を担当することになる。食事係での経験を通して、心情が変化していく主人公の様子から周囲への思いやりと感謝について考えることのできる教材である。
- ・主人公は、母に促され、食事係を担当することになるが、転校先の中学校が決まり、不安も募る中で、周囲の思いやりに気付いたり、それに感謝したりすることができずにいる。しかし、食事係の経験を通して、周囲に目を向けることができるようになっていく。主人公の捉える「新しい世界」について考え、自分も他者も、共にかけがえのない存在であることに気付けるようにしたい。
- ・周囲に感謝して行動に移そうとしている主人公や、朝の残菜をほとんどしなくなった人々について考えることを通して、他者の思いやりに触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度につなげたい。

■ねらい

誰もが状況によって利己的、自己中心的になるが、共にかけがえのない存在であることに気付き、他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度を育てる。

■展開の構想

- ・俳句を通して、本時の価値の方向を理解する。
- ・避難所生活の不安などから、周囲の思いやりに気付いたり、それに感謝したりすることができない主人公の弱さに共感する。
- ・「新しい世界」について交流し、自分も他者も、共にかけがえのない存在であることについて考える。
- ・他者の思いやりを有り難いと感じ、素直に受け止め、感謝の念を抱いている私や、周囲の人々も感謝し、その気持ちを行動に表しているのではないかということを想起し、道徳的価値に迫る。
- ・自分を見つめ、自己を振り返るとともに、これからの自分の生き方について考える。

■基本発問（◎中心発問）

- 俳句中の「心にしみる塩むすび」とはどういうことでしょうか。
- 母に食事係を頼まれたとき、私はどんなことを思ったでしょうか。
- 「食事係で新しい世界を知った」とは、私のどのような思いが込められているでしょうか。
- ◎「温かさが体中にしみ渡る」とは、どういうことでしょうか。
- 「周りへの感謝」について、自己の行動を振り返り、これからの自分について考えましょう。

授業構想の手順

ポイント

1 「価値の分析」

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領解説等を基に明らかにします。

【内容項目について大切にしたいこと】

思いやりの心をもって人と接するとともに、他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度を育てること。

■内容項目

B-(6) 思いやり、感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

ポイント

2 「実態と要因の分析」

「価値の分析」を基にした児童生徒の実態と授業者の願いから、指導の要点を明らかにします。



【生徒の実態と要因】

- よさ：仲間のために進んでプリント等を配付したり、困っている仲間に優しく声をかけたりするなど、他者のことを考えた思いやりのある姿が見られる。
- 課題：進路選択への不安などから、周囲の思いやりに目を向けることができないことがある。また、支えに気付いていても、感謝の気持ちを言葉や行動にして表現することに弱さがある。
- 要因：自分のことに気を取られ、周囲の思いやりに目を向けることができないことがある。また、支えられていることに気づき、有り難いと思っけていても、照れくささや恥ずかしさなどから、感謝の気持ちを素直に伝えるに至らない。

【実態から育成したいこと】

自分も他者も共にかけがえのない存在であることに気づき、他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度。

ポイント

3 「教材の分析」

考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

●実態と要因から中心的に取り上げたい場面●

温かい塩むすびを一口頬張り、「その温かさが体中にしみ渡る」と主人公が思っている場面。

あ ら す じ

- ・東日本大震災で被災した主人公が、避難所での食事係での経験を通して人との関わりや支え合うことを学び、成長していく。
- ・最初、母に食事係を促された際には、前向きに取り組むことができなかったが、関わり続ける中で視野が広がり、支えてくれている人の思いに応えることの大切さに気付く。
- ・主人公も避難所にいる人々も温かい塩むすびに感謝し、思いやりの心をもって行動しようとする。

ポイント

4 「考え、議論したいこと」

「価値」「実態と要因」「教材」の分析を受け、**考え、議論したいこと**を明確にします。

●考え、議論したいこと●

周囲に目を向け、他者の思いやりの心に触れて感謝するとともに、相手に対して何をもって応答することができるかについて。

5 「ねらい」の設定

【ねらい】

誰もが状況によって利己的、自己中心的になるが、共にかけがえのない存在であることに気づき、他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度を育てる。



6 「本時の展開の構想」

指導方法の工夫

・「発問の工夫」・「学習活動の工夫」など

本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1 教材に関心をもち、本時の見通しをもつ。 ○俳句中の「心にしみる塩むすび」とはどういうことでしょう。 ・塩むすびがおいしくて、感動した。 ・被災した時に、塩むすびを作ってもらえて嬉しい。	・避難所の背景について触れる。 ・俳句を紹介することで、教材への関心を高める。
展開前段	2 教材「塩むすび」を読み、話し合う。 ○母に食事係を頼まれたとき、私はどんなことを思ったでしょう。 ・行くのが面倒くさい。 ・母がいけばいい。だれかがやってくれるからいい。 ・中学校に通わなくてはいけない。→時間がない。 ・知らない人ばかりだから関わりにくい。 ○「食事係で新しい世界を知った」とは、私のどのような思いが込められているでしょう。 ・食事係の人がみんなのことを考えて協力している。私の知らないところで気を配り、活動している人がいる。 ・自分だけが不安なわけではない。周囲の頑張りに支えられている。私も何かをしなくては。 ◎「温かさが体中にしみ渡る」とは、どういうことでしょう。 ・こんなに温かくて、おいしい塩むすびを食べることができるのは、おばさんたちのおかげ。 ・食事係のおばさんたちの頑張りに支えられて、今の自分がある。新しい学校では、私が誰かのために頑張りたい。 【深めるための補助発問】 「温かい塩むすびに感謝したのは私だけではなかったようだ」とは、どういうことでしょう。 ・食事係の思いやりに対して感謝した人たちが、その気持ちを「残菜をできるだけ減らす」という行動で表そうとしたのではないか。	・主人公が私であることを明示する。 ・食事係を頼まれた時の私の利己的、自己中心的な気持ちを交流し、私の弱さに気付けるようにする。 ・「新しい世界」について、私の思いを問うことで、自分も他者も、共にかけがえのない存在であることに気付けるようにする。 ・避難所で温かくておいしい塩むすびを食べることができていること、食事係を通して自分が成長できたことなど、他者の思いやりを有り難いと感じ、素直に受け止め、感謝の念を抱いていることを考え、価値理解や他者理解を図る。 【評価の視点】 「感謝」について、様々な立場から考えようとしている。 ①
展開後段	3 高められた価値観から自己を見つめる。 ○「周りへの感謝」について、自己の行動を振り返り、これからの自分について考えましょう。 ・中学校生活の中で、友人や地域の方、先生方など、様々な人たちからの思いやりを受け取っているが、恥ずかしい思いがあり、感謝を伝えることができなかった。今からでも、きちんと伝えていきたいと思った。 ・校門で毎朝挨拶してくれている生徒会の人たちに、塾で遅くなった次の日などは鬱陶しそうな態度で接してしまうことがある。一日が気持ちよくスタートできるように毎朝頑張ってくれる仲間を大切に、気持ちよく挨拶を返したい。	・本時の道徳的な価値に基づいて「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返りをするように促す。 【評価の視点】 「周りへの感謝」について、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。 ②
終末	4 教師の説話を聞く。	・感謝の気持ちを素直に伝えたことで、結果として心の絆をより強くしたことについて話をする。

指導と評価の一体化

本時の「ねらい」

誰もが状況によって利己的、自己中心的になるが、共にかけがえのない存在であることに気づき、他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝の気持ちを言葉や行動にして表そうとする実践意欲や態度を育てる。

評価

1 【評価の視点】の位置付け

道徳的諸価値を理解し、道徳的価値観を形成するための、具体的な【評価の視点】を設定します。

ポイント

①

【評価の視点】

「感謝」について、様々な立場から多面的・多角的に考えようとしている。



②

【評価の視点】

「周りへの感謝」について、これまでの自分を見つめながら、これからの自分について考えている。

2 「児童生徒の姿・発言」を想定

【評価の視点】を基に、「児童生徒の姿・発言」を具体的に想定します。

ポイント

想定する「具体的な学習状況」

- ① こんなに温かくて、おいしい塩むすびを食べることができるのは、食事係のおばさんたちのおかげ。おばさんたちの頑張りに支えられて今の自分があるので、新しい学校で、誰かのために頑張りたい。
- ② 中学校生活の中で、友人や地域の方、先生方など、様々な人たちからの思いやりを受け取っているが、恥ずかしい思いがあり、感謝を伝えることができなかった。今からでも、きちんと伝えていきたいと思った。



3 「評価の視点」に基づいた指導の工夫

【評価の視点】に基づいた、「道徳的価値の意義や大切さの理解」「物事を多面的・多角的に考えること」「自己を見つめること」等から、具体的な指導の工夫を考えます。

ポイント

発問の工夫

①

「物事を多面的・多角的に考えること」

ができるようにするために…

発問「『温かさが体中にしみ渡る』とは、どういうことでしょう。」

- ・他者の思いやりの心に触れて感謝し、感謝するからこそ他者の立場を尊重し、今後につなげようとする私の思いを考えることができるようにする。



深めるための補助発問「『温かい塩むすびに感謝したのは私だけではなかったようだ』とは、どういうことでしょう。」

- ・思いやりと感謝の心が、多くの人たちへの感謝へと次第に広がり、残菜を減らすという行動に繋がっていると捉えている主人公の気持ちに気付くことができるようにする。

学習活動の工夫

②

「自己を見つめること」

ができるようにするために…

本時の学びと自分のこれまでの生活を関わらせながら振り返る。

- ・本時の道徳的な価値に基づいて「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という視点で振り返りをするように促す。



指導



3 道徳教育パワーアップ実践校 実践事例紹介

(1) 岐阜市立白山小学校

① 研究の内容

<研究主題>

自己を見つめ、よりよい生き方を創りだす子の育成

② 本年度の実践

- (1) 研究内容1 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するための工夫
- (2) 研究内容2 道徳的価値を追求し、自己を見つめるための「発問」の精選や授業展開の工夫
- (3) 研究内容3 道徳的实践につなぐ場の工夫

③ 来年度に向けて

- (1) 本年度の成果
- (2) 本年度の課題

(2) 関市立津保川中学校

① 研究の内容

<研究主題>

自己を見つめ、よりよい生き方をめざして実践しようとする生徒の育成

② 本年度の実践

- (1) 研究内容1 道徳科の授業を要とし、全教育活動を通して行う道徳教育の推進
- (2) 研究内容2 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める授業展開の工夫
- (3) 研究内容3 地域・家庭と連携し、道徳性を育む活動の充実

③ 来年度に向けて

- (1) 本年度の成果
- (2) 本年度の課題

(1) 岐阜市立白山小学校

1 研究の内容

岐阜市立白山小学校は、全ての学年が20人前後の単学級で全校児童数142人の学校です。入学してから、一度もクラス替えが行われないため、同じ仲間と安心して過ごすことができる反面、人間関係が固定化しやすく、先入観にとらわれた考え方や付き合い方をする姿がしばしば見られます。そこで、豊かな人間関係を築きながらこれからの社会を生き抜いていく子供の育成のため、研究主題を「自己を見つめ、よりよい生き方を創りだす子の育成」とし、重点内容項目は「親切、思いやり」「公正、公平、社会正義」「生命の尊さ」と位置付けました。

年度はじめに行った道徳科の授業に関する児童へのアンケートでは、「授業が楽しい」「意見を言うことができる」の設問に対して、肯定的な回答が多くありました。しかし、実際の授業では、発言する児童がいつも同じで、ねらいとする道徳的価値の理解を深めることができていないこともありました。そこで、児童の心に響き、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるためには、多様な指導方法で道徳科の授業を進めていく必要があると考え、次の研究内容について実践を進めてきました。

研究主題	自己を見つめ、よりよい生き方を創りだす子の育成
研究内容 1	道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するための工夫
研究内容 2	道徳的価値を追求し、自己を見つめるための「発問」の精選や授業展開の工夫
研究内容 3	道徳的实践につなぐ場の工夫

2 本年度の実践

(1) 研究内容 1 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するための工夫

各教科の授業、学校行事、地域行事等、教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として、道徳科の授業を計画的、発展的に行う必要があると考え、年度はじめに道徳教育の別葉の見直しを行いました。例えば、運動会後には、全ての学年が道徳科の授業において、関連する内容項目（「感謝」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」）を取り扱うことで、より具体的に自己を見つめました。このように、道徳的实践意欲と態度を育てられるような工夫を積み重ねてきました。



【運動会の練習の様子】

(2) 研究内容 2 道徳的価値を追求し、自己を見つめるための「発問」の精選や授業展開の工夫

児童の実態とその要因の分析を踏まえ、教材を通して何を考えさせ、何に気付くことができるようにしたいのか、明確な意図や目的をもち、どのような場面でどのような発問や問い返しをするかを考えてきました。

また、小グループやペアで交流する機会を意図的に位置付け、自分の考えや意見、感じ方や考え方を表出しやすいように授業展開を工夫しました。その他にも、自分の心を見つめることができるようにICT機器を活用した心情メーターを活用しました。そうすることで、言葉で表しづらい微妙な心情を表現したり、他者の考えを知り議論をしたりすることができるようになり、道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることができました。



【ICTの活用と「発問」を工夫した授業】

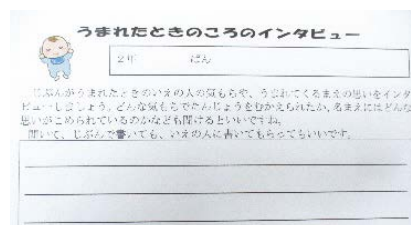
特別支援学級「わたのみ（自閉・情緒学級）」では、第2・3学年と第4・5学年とに分かれて、1時間に同じ内容項目の2学年分の教材を一緒に考える実践をしています。少人数で、子供達が同じ道徳的価値に関わって話し合える授業となるよう工夫しています。また、低学年を中心に動きや言葉を真似て理解を深める動作化の工夫も取り入れています。



【第2学年で行う「わたのみ学級」の授業】

（3）研究内容3 道徳的实践につなぐ場の工夫

「第2学年 教材名『おとうとのたんじょう』」の学習の際、保護者に我が子が誕生したときの気持ちを手紙に書いていただき、それを授業の中で活用しました。自分が生まれたことを家族が喜んでいることを感じながら自己を見つめ、「いのち」について考えることができました。授業後には、児童の授業での様子や感想等を保護者に通信で伝えました。授業で話し合ったことを家庭でも話題にしてもらうことで、道徳科の授業で感じた思いをさらに深めることができるようにしました。また、「第6学年 教材名『羽ばたけ、折り鶴』」の学習後、児童から「命の大切さをみんなにも考えてもらいたい。」「折り鶴を折って送ることを全校で取り組みたい。」という願いが表出しました。それが、「白山折り鶴プロジェクト」の立ち上げにつながり学校全体へ働きかけることができました。



【自己を見つめるための工夫】



【地域防災訓練】

白山小学校では、地域の方との防災訓練や合同運動会、公園の清掃等、地域とのつながりを大切にしています。防災訓練では、訓練を通して命の大切さについて話し合い、災害から命を守る道徳的な判断力を育むことができました。合同運動会では、地域の一員として楽しく参加することができ、思いやりの心を育み、勤労や社会に奉仕することの充実感を味わうことができました。



【学校と地域との合同運動会】

11月には、世界的に有名な義足のダンサー大前光市さんをお招きし、「夢は形を変えて叶う!」という演目でダンスを鑑賞したり、講演を聞いたりしました。事故で左足を失いながらも、夢を実現させるために本気で努力されたことやあきらめずに頑張り続けられたことが夢の実現につながったことを全校児童の前で話していただきました。「希望と勇気、努力と強い意志」に関わる道徳的实践意欲と態度を育む大変よい機会となりました。



【大前光市さんの講演】

3 来年度に向けて

（1）本年度の成果

学校の教育活動全体だけでなく、地域や家庭の協力を得ながら道徳教育を推進することができました。また、外部講師を招いて研修を重ね、全ての学級で道徳科の授業研究を行いました。授業でねらう道徳的価値に迫るための発問の精選や授業展開を工夫することの大切さを全職員が共通理解し、指導力の向上に向けて取り組むことができました。

（2）本年度の課題

児童が自己を見つめながら道徳的価値の理解を深めるために、より一層、自分の状況を客観的に見つめられるようにする必要があります。そのために、具体的な体験やそのとき考えたことや感じたことを想起するための発問、他者理解や人間理解を深めるための基本発問、価値理解を深めるための中心発問等、各発問のねらいを明確にしたり発問の構成を工夫したりすることも必要だと考えます。

(2) 関市立津保川中学校

1 研究の内容

本校では、学校の教育目標「明日を拓く たくましさ～聡明・創造・爽快～」を踏まえ、日々の教育活動を展開しています。道徳教育においては、「自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる指導」の充実に取り組んできました。

全国学力・学習状況調査の生徒質問調査から、人の役に立つ人間になりたいと願っている生徒や、人が困っているときは、進んで助けている生徒が多く、他者のことを考えて行動しようとする意識が高いことが分かりました。しかし、自分にはよいところがあると感じている生徒は上記の割合に比べて少なく、自己肯定感が低い傾向にありました。また、自身の考えや地域のよさを広げようとしたり、発信したりする意識が弱いという実態もつかめました。

このような生徒の実態から、自分のよさに気付くことや地域に支えられて生きていることを自覚することで、地域の活動に主体的に関わり、自分のこととして捉えて地域の発展に努めようとする実践意欲と態度を育成していくことが必要であると考え、道徳教育の研究主題を以下のように定めて実践を進めてきました。

研究主題 自己を見つめ、よりよい生き方をめざして実践しようとする生徒の育成

研究内容 1 道徳科の授業を要とし、全教育活動を通して行う道徳教育の推進

研究内容 2 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める授業展開の工夫

研究内容 3 地域・家庭と連携し、道徳性を育む活動の充実

2 本年度の実践

本年度は、「全教育活動を通して行う道徳教育」と「道徳科の授業改善」の2つの側面から研究を進め、「生徒自らが自分や地域のよさに気づき、地域に主体的に関わっていこうとする意欲と態度につながる実践」に重点を置いて取り組みました。

(1) 研究内容 1 道徳科の授業を要とし、全教育活動を通して行う道徳教育の推進

○道徳的価値を意識した教育活動の実施

①ありがとうメッセージの取組

「ありがとうメッセージ」は、学年関係なく全校生徒が頑張りを認めるメッセージや感謝の言葉を贈り合う取組です。異学年からもありがとうメッセージをもらうことで、学級の仲間同士だけでなく、より多くの人から様々な場面で認められていることを知ることで、自己有用感や満足感を感じることができるようになりました。



【ありがとうメッセージの取組】 【つばがわおもいやりNOTE】

②「つばがわおもいやりNOTE」の取組

校区の小学校や地域の健全育成協議会と連携し、小中学校で共通して「つばがわおもいやりNOTE」を作り、活用してきました。相手のことを考えて行動したことや仲間のよさを見つけたこと、周りの人や地域のためにボランティアしたことなどを記録することで、自らのよさに気づき、自己肯定感を高めていけるようにしています。

(2) 研究内容 2 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める授業展開の工夫

○人間理解、他者理解、価値理解、自己理解を確かにし、考えを深めるための授業改善

①授業構想の手順に沿った教材分析

授業を行う前に、「道徳科の授業構想」と「指導の工夫、発問の工夫」を整理してまとめ、学年部で検討するようにしました。検討の際、具体的な生徒の考えや言葉を想起して道徳科の授業を構想することで、ねらいに迫るための明確な発問を考えることができるようにしています。併せて、生徒の思いを引き出し、道徳的価値の理解を深める指導の在り方について、外部指導者を招聘して職員研修を積み重ねてきました。研修を通して、より効果的な指導方法を職員全員で学び、日頃の道徳科の授業を複数担任で実施していくことで、指導力の向上を図ってきました。

②多面的・多角的に考え、議論する交流の工夫

多面的・多角的に考え、議論する交流を行うための手立てとして、タブレットの活用やホワイトボードの利用、役割演技の3つを取り入れながら、道徳科の授業実践を行ってきました。資料に応じて、①タブレットを活用し、自分の考えを深める全体交流、②ホワイトボードを利用し、仲間の意見を参考にして自分の考えを深める班交流、③具体的な場面における自分の言動から、その時の気持ちや思いを考える役割演技を選択することで、深い議論を生み出してねらいに迫れるようにしました。



【役割演技を行う生徒の様子】

(3) 研究内容3 地域・家庭と連携し、道徳性を育む活動の充実

○自らの願いをもって、中学生として地域づくりに参画する夢活やボランティア

①地域から学び、発信する夢活の実施

本校では、総合的な学習の時間を「夢活（ゆめかつ）」と呼んで取り組んでいます。夢活では、地域で働く職場体験や地域を支える方を外部講師に迎えて学ぶ機会を通して、地域のために自分たちにできることを考え、夢や希望をもって将来につなげていけるように学習しています。

具体的には、地元の津保川漁業協同組合の方に教えてもらいながら自然との共生について考える「鮎釣り体験」や、中濃森林組合や中濃農林事務所、武儀林業育成指導員会などの方から学ぶ「森林教室」、地域で活躍している方を外部講師に迎えて学ぶ「職業講話」、地域で生徒自身が働く「職場体験」、地域で学び、支えられたことへの感謝を伝える「武儀・上之保のつどい」など、地域と共に活動し、地域から学び、地域に伝えていくことで、夢や希望をもって主体的に地域づくりに参画していけるようにしています。



【漁協の方から自然との共生を学ぶ鮎釣り体験】

②地域で活動し、思いを伝えるボランティア

学校で学んだり、取り組んだりしてきたことを、生徒自身が捉え直して実践につなげていけるように、地域行事を紹介し、ボランティアに参加できるように地域と連携を図っています。

これまでのボランティアでは、武儀ロマンウォーキングで故郷に伝わる昔話を紙芝居で地域の方に語ったり、上之保ゆずまつりなどの行事で運営のお手伝いをしたりと、各種イベントなどのボランティアスタッフとして、率先して参加する生徒が増えてきています。

課題として捉えていた、地域との関わりについても、地域を知り、地域と共に活動していくことで、地域のために考え、行動しようとする生徒の育成につながってきているといえます。

身近な地域との関わりを通して、生徒自身の生き方や人生を豊かなものにし、人も自然も豊かな地域を大切にすることを育めるようにしています。



【地域の方を外部講師に迎えた職業講話】



【地域へ発信する武儀・上之保のつどい】

3 来年度に向けて

(1) 本年度の成果

学校教育全体で道徳教育を推進するために、外部指導者を招聘して職員研修を行ったり、道徳性を育むための活動を充実させたりしたことで、道徳教育を核にしたカリキュラム・マネジメントを進めることができました。また、授業でねらいに迫るための具体的な手立てを学び、道徳科の授業を構想し、職員全員で共通理解を図ることで、教師の指導力を向上させることができました。その結果、生徒の自己有用感や地域での活動の意識を高めていくことができました。

(2) 本年度の課題

本年度は、学校教育を中心に地域や家庭と連携して実践を進めてきました。研究主題「自己を見つめ、よりよい生き方をめざして実践しようとする生徒の育成」を実現するためには、地域や家庭との連携をさらに進めるとともに、ねらいを共有して活動を充実させていく必要があります。そのためにも、生徒の意識を高めていけるように、道徳科の授業を要とした教育活動の充実と授業改善を進めていく必要があると考えています。

情報提供

(1) 文部科学省 「道徳教育アーカイブ」

道徳教育アーカイブ
～「特別の教科 道徳」の全面実施～

文字サイズ 小 中 大 Google 検索 文部科学省

道徳教育について ▶ 実践事例 ▶ 教育委員会等作成指導資料(手引き) ▶ 授業で使える郷土教材 ▶ 地域版道徳教育アーカイブ ▶

文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨の実現を図るため、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の取組を全力で支援します。

道徳教育について 実践事例 教育委員会等作成指導資料(手引き) 授業で使える郷土教材

Pick Up

令和6年1月23日 小学校1事例(第1学年)の動画を追加しました。

令和5年9月26日

文部科学省「道徳教育アーカイブ」 URL : <https://doutoku.mext.go.jp/>

(2) 岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」 『豊かな心を育む』(教員用のページ内)

「豊かな心を育む」道徳教育

記事ID : 0191743 2024年3月5日更新 ■ 義務教育課 [通常ページへ戻る](#)

道徳教育指導資料 豊かな心を育む道徳教育

令和5年度 岐阜県 道徳教育指導資料 [PDFファイル/32.53MB]

道徳教育啓発資料

令和5年度 「生命を尊重し、夢や希望を育む」・「自己有用感を高める」道徳教育の充実 [PDFファイル/2.08MB]

岐阜県道徳教育振興会議 実践協力校：下呂市立

2次元コード



岐阜県教育委員会HP「ぎふっこ学び応援サイト」
URL : <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/191743.html>

『豊かな心をはぐくむ』



1家庭1ボランティア運動

ボランティア運動中の
「ありがとう」の言葉に対する喜びが
「明日もがんばろう!」という希望につながります。

夢・希望

自信

ボランティア運動を通して得られる
「自分にはよいところがある」という実感が、
自信の高まりにつながります。

ボランティア運動での
人と人とのあたたかいつながりが、
自分も相手も大切にしようとする心を育みます。

命

「1家庭1ボランティア」運動の例

- 家族と一緒にごみ拾い
- 学校や地域での花づくり
- 学校でのあいさつ活動
- 地域の方と協力して地域の清掃活動
- 友だちと協力して地域行事の準備
- など

令和6年度 岐阜県 道德教育指導資料

令和7年3月発行

編集発行 岐阜県教育委員会 義務教育課

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

TEL 058-272-1111（代表）
